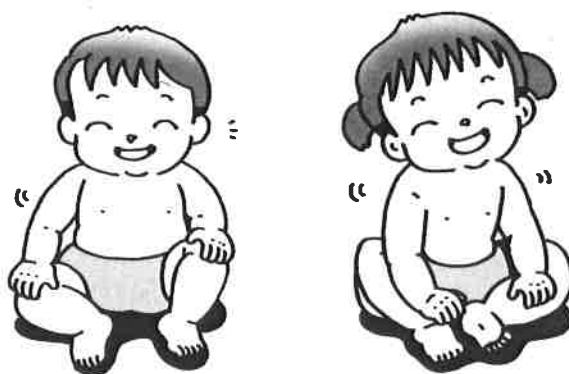

はじめに

保育保健の現場では、日々発熱、嘔吐、下痢、咳など感染症による体調不良や事故による負傷、さらにはけいれん、呼吸困難、ショック症状など、軽微なものから医療機関へ即刻緊急搬送が必要な重篤なものまで種々発生しています。

日本保育保健協議会では、これまでも厚生労働省などのガイドラインの発出に合わせて感染症やアレルギーなどに関するマニュアルを発行してきました。これからも保育保健の質の向上のために、保育現場で日常的に必要なマニュアルを発行していく所存です。

新たな形・組織としてスタートする保育施設も多くあるこの時期に、日常的にみられる軽微なものから、緊急性を要する重篤なものまで、園全体で子どもたちの健康と安全を守る対応について、再確認していただきたいと思います。



目 次

はじめに	1
1 章 健康情報と保健管理	2
1. 健康情報	2
(1) 入園児の情報収集	2
(2) 身体計測と健康診査など（嘱託医との情報交換）	3
(3) 登園時・保育中の健康観察	3
登園時の健康観察と対応	4
保育中の観察と対応	4
睡眠時の観察と環境設定	4
健康観察の記録	5
(4) 発育・発達状態の把握他	5
(5) 基本的欲求への適切な対応・情緒の安定	5
2. 健康教育	6
3. 保健管理（衛生・安全）	7
保健室の整備	7
保健室などに必要な備品	7
衛生管理	8
(1) 施設内外の衛生管理	8
食事、おやつ	8
調乳室	8
おむつ交換	9
園庭	9
プール	9
(2) 職員の衛生管理	9
安全管理	9
室内	10
園庭	10
その他	10
2 章 体調不良児への対応	11
1. 子どもに多くみられる症状	11
(1) 発熱	11
(2) 咳	12
(3) 嘔吐	13
(4) 下痢	14
(5) 発疹	15
2. けがや事故への対応	16
(1) 創傷（すり傷・切り傷）などの対応	16
(2) 転倒・転落（頭部打撲）の時の対応	18
(3) その他の疑われる症状	19
(4) 誤飲・誤嚥時の対応	20
(5) やけどの時の対応	22
(6) 動物の咬傷などへの対応	23

3. その他緊急を要するものへの対応	24
(1) けいれんの時の手当	24
(2) 熱中症への対応	25
(3) 溺水（水の事故）	26
(4) SIDS（乳幼児突然死症候群）への対応	27
4. 緊急時対応マニュアル	28
(1) 緊急時対応の流れ	28
(2) 具体的な対応について	28
• 第一発見者の役割	28
• 他の園児の誘導および保育	28
• 記録	28
• 救急搬送時の必要物品の準備	29
• 救急搬送に同行する	29
• 保護者への対応	29
• 職員指導	30
(3) 救命処置の方法	30
(4) 通報の仕方	31
5. 食物アレルギーへの対応	32
(1) 園児の特徴と留意事項	32
(2) 食物アレルギー児対応の考え方の統一	32
(3) 保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表（P.33）に基づいた対応	32
(4) 未摂取児への配慮	32
(5) 食物アレルギーと診断されている場合	32
3章 保護者アンケートの調査結果から	35
通常保育中に体調不良となった時の 保護者の保育への思いについて	35
4章 参考様式	39
(資料1) 入園時健康調査票	39
(資料2) パーセントイル曲線	41
(資料3) 保健日誌	42
(資料4) 睡眠チェック表	43
(資料5) 体調不良児の観察記録表・経過観察表	44
(資料6) 病欠・健康観察一覧表	45
(資料7) 予防接種および感染罹患状況	46
(資料8) 健康連絡カード（0～2歳用）	47
おわりに	48
